

| | | | | | | | | |
|---|--|------|------|--|-------------|----------|------------|----|
| 授業科目 | *キャリア開発 | | | | 単位 | 2 | | |
| 履修 | 必修 | 関連資格 | | | ナンバリング | TO10701J | | |
| 開講年次 | 1 | 開講時期 | 後期 | 該当DP | DP1-1 | | | |
| 担当教員 | 倉富 史枝 | | | | | | | |
| 授業概要 | 授業では、個人のキャリア開発を、労働政策や福祉政策、企業の雇用システムとの関連においてとらえます。また、キャリアについての個人の意識がどのように社会的に形成されてきたかを学術的な視点による現状の制度の分析や歴史的背景を解説します。また、キャリア開発に必要な情報を読み解く力を身につけるために、多面的な見方について説明します。 | | | | | | | |
| 学生が達成すべき行動目標 | 授業で得た知識を基に、自分と向き合い、現実と向き合って、自分の人生を選択する力をつける | | | | | | | |
| 達成度評価 | | | | | | | | |
| 評価と評価割合／ 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 発表(口頭、プレゼンテーション) | レポート外の提出物 | その他 | 合計 | 備考 |
| 総合評価割合 | 0 | 0 | 60 | 0 | 40 | 0 | 100 | |
| 知識・理解 (DP1-1) | 0 | | 60 | | 40 | | 100 | |
| 知識・理解 (DP1-2) | | | | | | | | |
| 知識・理解 (DP1-3) | | | | | | | | |
| 知識・理解 (DP1-4) | | | | | | | | |
| 思考・判断 (DP2-1) | | | | | | | | |
| 思考・判断 (DP2-2) | | | | | | | | |
| 関心・意欲 (DP3-1) | | | | | | | | |
| 関心・意欲 (DP3-2) | | | | | | | | |
| 態度(DP4-1) | | | | | | | | |
| 態度(DP4-2) | | | | | | | | |
| 態度 (DP4-3) | | | | | | | | |
| 技能・表現 (DP5-1) | | | | | | | | |
| 技能・表現 (DP5-2) | | | | | | | | |
| 技能・表現 (DP5-3) | | | | | | | | |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | |
| 理想的レベル | | | | 標準的なレベル | | | | |
| 1. 授業で得た知識を正しく人に伝えることができる。 2. メディアリテラシー、リーガルリテラシー、データリテラシーなど身の回り情報を読み解いて、自らのキャリア・デザインについて考え、人に解説することができる。 3. 自分の望むキャリアにおける課題を把握し、その解決方法について主体的に考え、社会的な行動にうつすことができる。 | | | | 1. 授業で得た知識を人に伝えることができる。 2. メディアリテラシー、リーガルリテラシー、データリテラシーなど身の回り情報を読み解いて、自らのキャリア・デザインについて考えることができる。 3. 自分の望むキャリアにおける課題を把握し、その解決方法について主体的に考えることができる。 | | | | |
| 授業計画 | | | | | | | | |
| 進行 | テーマ・講義内容 | | | 授業の運営方法 | 学習課題(予習・復習) | | 予習・復習時間(分) | |

| | | | | |
|----|---|----|--|----------------|
| 1 | テーマ: キャリアを考えるということ(外部講師) 企業におけるキャリア開発の現状と自分自身が主体的にキャリアを考えることの意義をキャリアコンサルタントが解説する。 | | 復習: 該当部分の復習 | 30 |
| 2 | テーマ: 女性のキャリア形成とジェンダーの視点 ジェンダーの縛りの強い国である日本でのキャリア形成に、男性と異なったどのような課題があるかを考える。 | 講義 | 復習: 該当部分の復習 | 45 |
| 3 | テーマ: 人間らしい働き方「ディーセントワーク」 ILO第 156 条約が保障する家族的責任とハラスメントについて解説する。 | 講義 | 復習: 該当部分の復習 | 45 |
| 4 | テーマ: 働くために知っておく労働法(外部講師) 過労死問題を通して労働問題・労働条件に関する知識を弁護士から学ぶ。家族を過労死で亡くされた方の体験談をうかがう | 講義 | 予習: アルバイトについて情報を集める 復習: 該当部分の復習 | 予習 60 復習 45 |
| 5 | テーマ: 「好き」の搾取 家事の経済的評価 女性の非正規雇用化の背景にある性別役割分業意識と家事の担い手の問題について解説する。 | 講義 | 予習: テレビドラマ「逃げるは恥だが役に立つ」第 11 回視聴 復習: 該当部分の復習 | 予習 60 復習 45 |
| 6 | テーマ: デートDVとDV デートDVを通して、「恋愛」におけるジェンダーの問題やメディアの影響を学び、互いに尊重し合う恋愛や結婚のあり方を考える。 | 講義 | 復習: 該当部分の復習 | 復習 45 |
| 7 | テーマ: 好きな人と性を語るために 性的自己決定権や女性の性的自立と避妊や妊娠について解説する。 | 講義 | 復習: 該当部分の復習 | 45 |
| 8 | テーマ: 多様な結婚～専業主夫という生き方～(外部講師) 専業主夫の体験談から多様な結婚の考え方を知り、性別役割分業にとらわれない生き方や同棲、事実婚、同性婚について学習する。 | 講義 | 復習: 該当部分の復習 | 45 |
| 9 | テーマ: 幸せな人生とお金の関係 経済的自立をするために必要な金額を把握し、賃金を得る重要性を理解する。日本の家族単位の福祉政策の課題と女性が自立できる働き方を考える。 | 講義 | 復習: 該当部分の復習 | 45 |
| 10 | テーマ: 子育てへの社会的支援 育児介護休業制度、子育て支援制度の使い方、不妊治療、養子縁組・里親制度について解説する。 | 講義 | 復習: 該当部分の復習 | 45 |
| 11 | テーマ: 介護責任とキャリア開発 介護責任を担う労働者が抱える現在の課題と、介護離職を避けるための両立支援策の整備状況を確認する。 | 講義 | 復習: 該当部分の復習 | 45 |
| 12 | テーマ: ダイバーシティ・マネジメント 企業におけるダイバーシティマネジメントの動向とワークライフバランスの取組みについて解説する。 | 講義 | 復習: 該当部分の復習 | 45 |
| 13 | テーマ: ロールモデルから学ぶ(外部講師) 三井住友銀行北九州支店のキャリア開発のロールモデルとなる女性の方から体験談を聴き、企業における働き方を考える。 | 講義 | 予習: 外部講師の企業について情報を集める 復習: 該当部分の復習 | 45 |
| 14 | テーマ: ライフデザインを考える(外部講師) 個別性を尊重したライフデザインをワークシートなどを使って具体的に考える。 | 講義 | 復習: 該当部分の復習 | 45 |
| 15 | テーマ: 総括 講義の総括、まとめ | 講義 | 復習: 全ての授業で学んだ知識を基に、自分のキャリア形 | 90 |

| | | | | |
|--------------------------------|--|--|------------------|--|
| | | | 成について当事者性をもって考える | |
| 16 | | | | |
| 17 | | | | |
| 18 | | | | |
| 19 | | | | |
| 20 | | | | |
| 21 | | | | |
| 22 | | | | |
| 23 | | | | |
| 24 | | | | |
| 25 | | | | |
| 26 | | | | |
| 27 | | | | |
| 28 | | | | |
| 29 | | | | |
| 30 | | | | |
| 理解に必要な予備知識や技能 | 中学の公民、高校の現代社会、政治経済、労働関連法、社会保障法、社会福制度など。家庭科で学んだライフサイクル論やライフコースなど。 | | | |
| テキスト | 適宜配布 | | | |
| 参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介 | 『キャリア開発論』2016/9/10 武石 恵美子（著） | | | |
| 授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ | 自分の人生の主役は自分自身です。自分がどのような個性を持っているか、何が好きなのか、日頃の生活の中で確認していくことがこの授業以外の学習となります。自分の持つ可能性を大事にして、人生を選び取る力を身につけてください。 | | | |
| 達成度評価に関するコメント/課題に対するフィードバックの方法 | 毎回の授業の最後に、授業で得たこととそれを自分の生活にどう生かすかコメントカードに書く時間を設けます。これを授業聴講レポートとして評価の対象とします。期末には、授業で得た知識を社会的視野からどのようにキャリアに生かしていくかを論理的に文章で表現した期末レポートを提出してもらいます。授業聴講レポートを40点、期末レポートを60点を満点として評価します。積極的に授業に参加してください。 | | | |

